



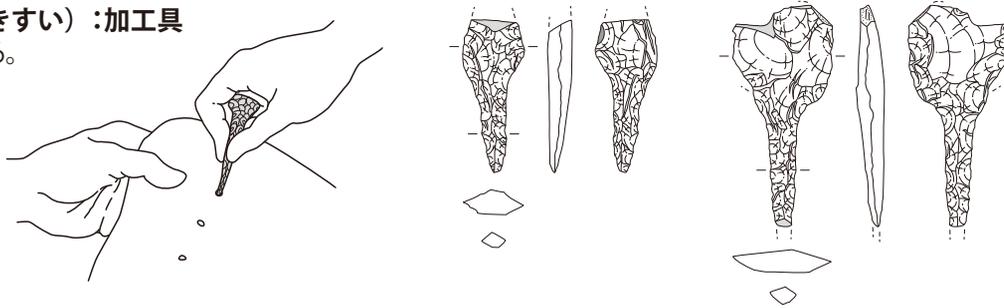
＝ 石器編 ＝

国府遺跡では大量の石器が出土します。これらの中には、多くの未成品（製作途中で廃棄されたもの）や石片が含まれるため、国府遺跡は石器の製作地であったと考えられています。石器は、鉄器が伝えられ普及するまで、当時の人々の暮らしの中で、欠くことのできない道具でした。

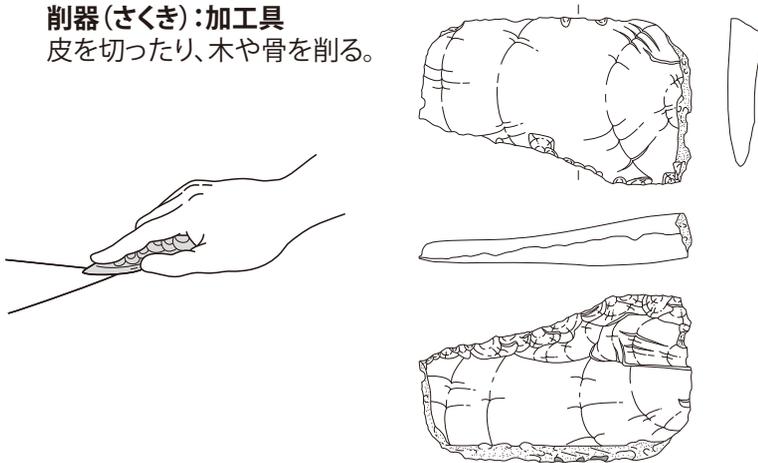
◇打製石器

石の塊の周囲を打ち欠いて使用するものと、剥がれた石片を、さらに打ち欠いてより鋭利な刃を作るものがあります。近畿地方では、出土する石器のほとんどが近くの二上山産のサヌカイトでつくられています。サヌカイトは、非常に緻密で、ガラスのように割れ口が鋭いため石器に適していたのでしょう。

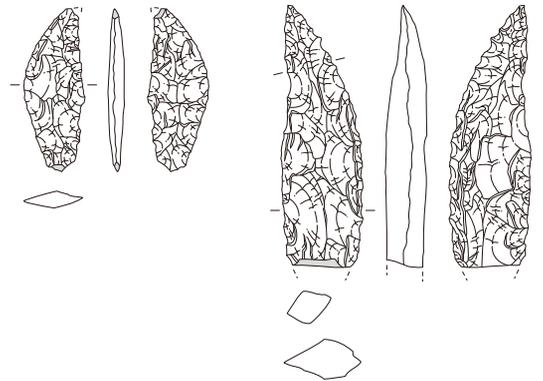
石錐（せきすい）：加工具
孔をあける。



削器（さくき）：加工具
皮を切ったり、木や骨を削る。

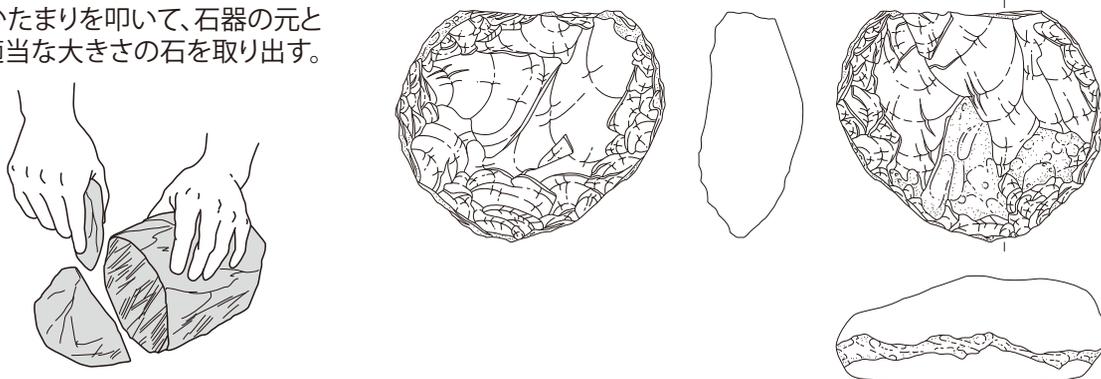


石小刀（いしこがたな）：加工具
小型のナイフ。

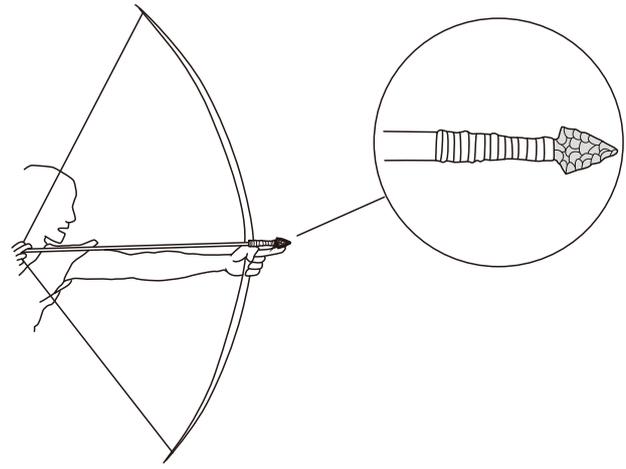
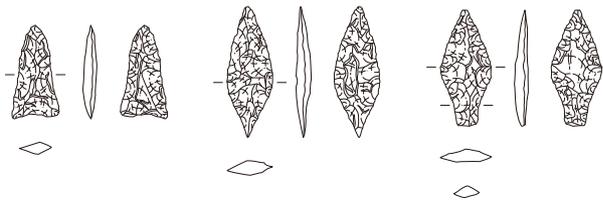


ハンマー：加工具

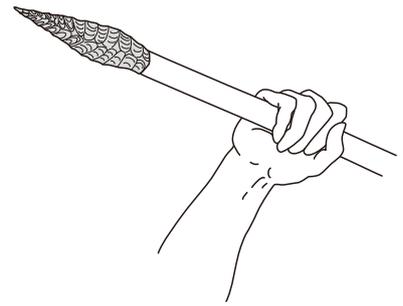
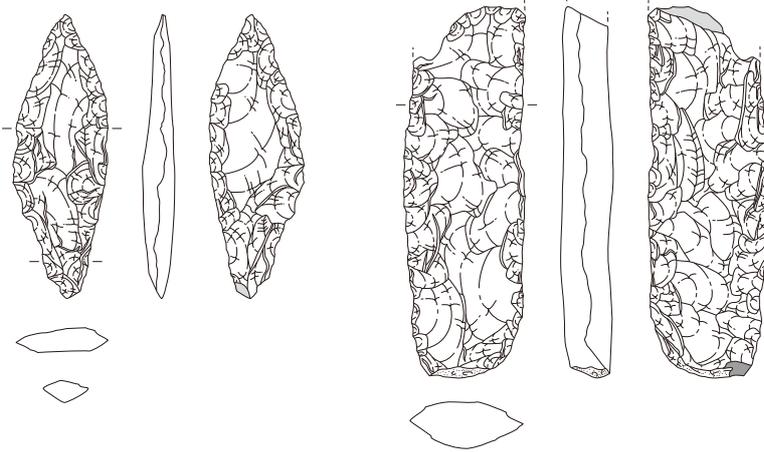
石のかたまりを叩いて、石器の元となる適当な大きさの石を取り出す。



石鏃（せきぞく）：狩猟具・武器
 矢の先につけ、狩猟や武器に使用した。



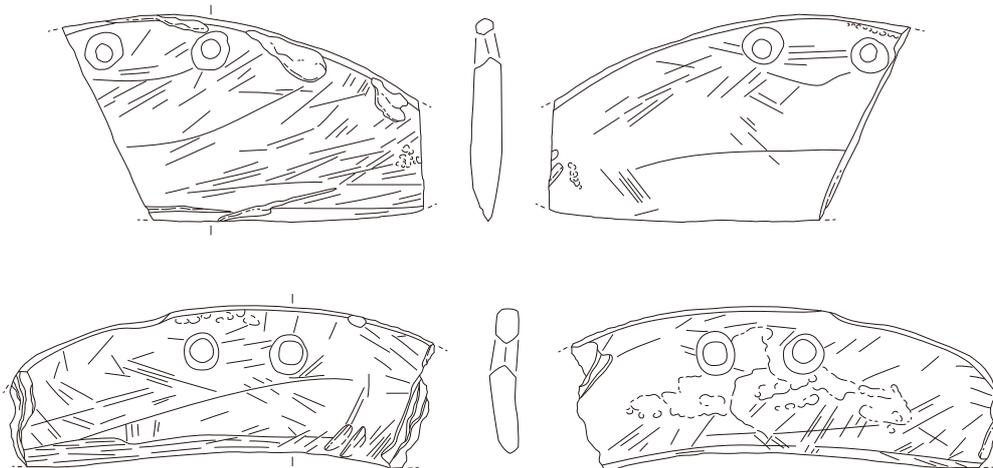
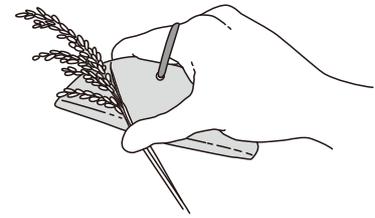
石槍・石剣（せきそう・せっけん）：狩猟具・武器
 槍の先につけ、狩猟や武器に使用した。



◇磨製石器

石を打ち欠いて形を整えてから、更に磨いて作りました。弥生時代になり水田稲作の技術と共に、農耕に必要な形のものが伝えられました。その一つが石包丁です。

石包丁（いしぼうちょう）：収穫具
 稲穂の摘み取りに使用した。藤井寺市で出土する多くの石包丁には、和歌山県紀の川流域で採集される結晶片岩の一種である緑色片岩が使われている。



◎遺物実測図は、展示中のものを載せています。実物と比べてみて下さい。
 大きさは、実物の1/2です。